

ご存じですか

学校がなくなる!?

足利市の学校統廃合計画

「足利の学校教育を考える会」は、『新たな学校づくり基本計画（原案）』について、足利市に次のような提案をし、市民と十分に議論をつくすことを要望いたします。

足利市に提出したパブリックコメントのポイントを参考にしています。
詳しくは、「足利の学校教育を考える会」のホームページをご覧ください。



提案 1

足利市の小・中学校が現在行っている「小学校と中学校の連携」を強化してください。基本計画中の『学校再編案』については、下記の①～③のように修正することを提案します。

- ① 北・南ブロックの複式の続く小学校は、R12年に近隣の小学校との統合を検討する。筑波小と梁田小は20人のクラス規模で継続する。
名草小は「地域発展拠点校」として、地域住民と拠点としての在り方を検討しながら存続する。
坂西ブロックの坂西北小については、R16年に複式化するかを確認して検討を始める。
いずれの学校においても、ICT教育を研究し、オンラインによる合同授業・協働学習等に生かす努力をする。
- ② その他の小学校・中学校については、学年単クラス（1学年1クラス）を認めて現状を維持し、R20年過ぎに改めて検討を始める。
- ③ 「小規模特認校」の実践の総括と評価の研究をR12年までに取り組み、足利1中、愛宕台中は、人数や抱えている問題等（地域の理解、教員の働き方等）の推移を見ながら検討していく。富田中は現状を維持する。

提案 2

下記の諸課題に取り組み、地域住民と市民が納得できる説明を望みます。

- ① 学校を通じて、「子どもたちの意見（小学校は高学年中心）」を確認する。
- ② 児童の登下校に関する問題（スクールバスの運行シミュレーション、自転車通学の範囲決めと安全の確認、不登校児童の登下校支援方法、学童保育の整備など）を緻密に検討する。
- ③ 足利市が作成した『都市計画マスタープラン』と突き合わせて研究し、地域の特色を生かした教育の内容を構築する。
- ④ 「（文科省も示す）少人数教育のメリット」を明示し、責任を持って取り組むための「学校再編検証委員会」の設置を加えた計画にする。

理由

- ① 各統合該当地域の住民から、学校存続の声が多数上がっています。
- ② 1学年1クラスの環境は、今でもたくさんありますが特に問題は起こっていません。
20人前後の規模であれば、多くの教師が認めるように「最高の学習環境」となります。初めて欧米の教育環境（OECD平均21.9人）と並ぶことになり、足利市の教育行政の到達点として評価されるでしょう。
- ③ 「小規模特認校」は、市民から存続の声があり、他市からも高く評価されています。
- ④ 5年、10年後の社会変化（IT・ICTの進化、日本・地球の環境）は想像できないほど大きく、学校教育も大きく変化するでしょう。現在の考え方で市全体の学校の在り方を決めるのは、国の補助金が出ることを考慮しても冒険だと言えるでしょう。